

平成30年度業務執行報告

[平成31年6月1日HP掲載]

I、法人運営の概要

II、事業執行の内容

- ・教育目標及び基本姿勢
- ・当該年度の事業概要
- ・事業の目的計画と実施
- ・実施計画の進捗状況等
- ・認定こども園事業
- ・職員研修（園内、園外）
- ・情報発信の状況

III、学校評価について

- ・職員自己評価の集約内容
- ・学校関係者評価の内容

IV、財務状況の内容

学校法人内丸学園 幼保連携型認定こども園

盛岡幼稚園

平成30年度・事業報告書

I 法人の概要

- 1、法人名： 学校法人内丸学園
 2、理事長： 坂本 洋
 3、住所： 岩手県盛岡市中央通1丁目6-47
 電話：019-622-2301 Fax: 019-622-1819

4、設置する学校

名称： 幼保連携型認定こども園 盛岡幼稚園
 認定こども園（認定月日：平成19年2月27日）
 類型：・幼稚園型（当初は認可外保育施設併設）
 ・幼保連携型（平成22年4月1日認定）変更
 ・ // （平成27年4月1日新制度移行）
 備考：22年度から0歳児～2歳児は保育所認可【定員21名】、23年度【定員30名】となる。運営費委託料計上は厚生労働省所管（盛岡市保健福祉部）。
 平成27年4月1日から子ども・子育て支援新制度により、従来の幼稚園・保育園が単一施設となり、3号子ども定員30人から42人へ変更。
 また、幼稚園学校教育部分は4学級105人。内訳1号子ども定員45人、2号子ども60人へ変更。 合計：147人の定員変更。

5、学級編成と定員並びに実績（認定こども園定員：147名）31年3月1日現

項	5歳児学級	4歳児学級	3歳児学級	計
定員	1学級	1学級	2学級	4学級
	35名	35名	35名	105名
30年度実績	1学級	1学級	2学級	4学級
	34名	30名	35名(満3歳1名含む)	99名
	保育園【0歳～2歳 定員42名】0歳：8, 1歳：18, 2歳：18			44名

計：143名

6、認定こども園受入れ実績状況（認定こども園定員：147名）31年3月1日現

入園対象の認定	3～5歳児(満3含)	0～2歳児	計
1号	34名		34名
2号	65名		65名
3号		44名	44名
計	99名	44名	143名

7、法人役員・教職員の概要

理事 7名：理事長1名、理事長代行者1名、理事5名

評議員 15名：寄附行為23条(1) 4名、23条(2) 3名、23条(3) 8名

開催内容：理事会6回、評議員会2回、監査：外部2回、法人監事2回 計4回

理事会	① 5月26日、②6月14日、③10月9日、④12月20日、⑤1月19日、⑥3月19日
評議員会	① 5月26日、②1月19日、
監査会	① 5月15日、②5月22日(法人)、③2月20日、④2月25日(法人)

学校関係者評価委員会：年1回（平成31年3月12日） 評価内容は別添のとおり。

苦情解決第三者委員会：年1回（平成31年3月12日） ”

教職員 34名：理事長1名、幼稚園長1名、主幹保育教諭1名、指導保育教諭1名、
保育教諭11名、保育教諭(非)12名、
看護師(非)1名、栄養士2名、調理師1名、調理員(非)1名
事務職員2名、

II 事業執行の概要

1、教育目標及び基本姿勢

(1) 教育目標

生命力にあふれる子ども達が、愛情と活力と創造に満ちた生活をめざし、幼児の心身の発達に応じた豊かな体験が得られるよう教育環境を整え、一人ひとりの心情・意欲・態度の発達を養い、基礎的人間性の土台となる、生きる力や心の教育の育成を目標とする。

また、東日本大震災による被害状況が、かつて経験したことのない甚大な被災となり、これまでの危機管理対応を根幹から見直すこととなり、かけがえのない子ども達一人ひとりの命の大切さを改めて教育の根底に据え、安心安全な環境づくりに努めること。

(2) めざす子ども像

園訓： つねによろこぶべし（いつもにこにこ）

- 健康でたくましい子ども
- よく聞きわかり行動する子ども
- すなおに感じ豊かに表現する子ども
- 心身ともに安定した生活を送れる子ども
- 神と人ともに喜ばれる子ども

(3) めざす教師の役割像

- 幼児一人ひとりが、より豊かに遊び、学ぶ生活を過ごせるよう援助する
- 集団生活の中で生きる力、喜びの広がりが育つ環境づくりに配慮する
- 自律と協同の育ちに配慮し、協同的な遊びや学びの環境構成を工夫する
- 総合的な教育と保育の一貫した幼児教育の保育計画づくりに配慮する

(4) 教育目標達成のための基本姿勢

- 型にはめない自由な個性の伸長 (個性重視)
- 遊びの十分な保障と充実感 (満足感と承認充足)
- 感性や情緒性豊かな環境づくり (夢のある環境)
- 愛情に満ちた子どもとのかかわり (愛着心の育成)
- 善悪の判断基準の適切な指示 (社会行動規範の明示)

2、当該年度の事業概要

運営基本方針に基づき、教育目標の達成に努め個性豊かな教育を実現した。

特に本年度から施行された改訂教育・保育要領に基づいて、幼児期の終わりまでに育って欲しい10の姿を意識した実践に努め、0歳児から5歳児までの一体的全体指導計画を作成し非常勤職員を含めた園内研修で共通理解を図った。

◎ (主な行事等)

4月：第111回入園式、始業式、JRC登録式、5月：親子遠足、避難訓練、交通安全教室、内科検診、ふたば会総会、タッピングの畑、6月：歯科検診、眼科検診、耳鼻科検診、花の日礼拝、保護者参観、7月：七夕、プール遊び、お泊り会、8月：夏休み、9月：運動会、年長児タッピングの森遠足、10月：遠足、タッピングの畑、ふたば祭り、11月：収穫感謝祭、焼き芋会、トトロランド、保育参観、小学校体験学習、芸術観賞会、国際支援交流会(インドネシア)、12月：クリスマス礼拝、卒園児クリスマス会、冬休み、1月：鮭の赤ちゃん飼育、2月：保護者参観、卒園を祝う会、3月：お別れ会、修業式、卒業証書授与式(各月ごとの避難訓練実施した)

◎ (園外イベント参加)

こいのぼり掲揚式(県庁)、県防災指導車出発式、食育キャラバン(県庁)、NHK日本語で遊ぼう取材、交通安全県民運動、

◎ 【1号認定・2号認定園児数状況】

3月末在籍：99、卒園者数：34、進級者数：65(A)

3月末入園申込み数：32、新入園児数：32(B)

次年度期首数(A+B)：97名

◎ 【3号認定園児数状況】

3月末在籍：44、卒園者数：18、進級者数：26(A)

3月末入園申込み数：16、新入園児数：16(B)

次年度期首数(A+B)：42名

◎ 幼保連携型認定こども園・盛岡幼稚園：次年度期首合計数：139名

3、事業の目的計画と実施

幼児教育の専門性資質向上及び幼児一人ひとりの育ちを保障する保育理念のもとに、ふさわしい教育環境をもって、幼児の心身の発達に応じた豊かな体験と感動に満ちた教育活動を計画立案し、加えて幼保一体化の認定こども園事業を積極的に取り入れた運営を実施した。

◎質の豊かな食育・給食提供のため、3号園児への自園給食調理機能の充実を基本と

し、1号、2号園児への完全給食提供のため調理員の増員を含め、給食調理室稼働2年目を迎えた食育指導の充実を期した。

◎ また、個別的配慮を要する園児は保護者の強い要請により2名（ダウン症候群児1名、両側感音難聴児1名）の受入れとなり、健常児の中で持てる能力の成長に努めた。

◎ なお、教育課程外の預かり保育（家庭部保育）は、認定こども園事業実施の中で継続して実施している。

◎ 新制度移行の当園の経過は、認定こども園として、平成19年2月27日付けで岩手県第一号の認定。当初は幼稚園型であったが、平成22年4月からは、認可保育園として、0歳児を加え認可保育事業として実施した実績。

平成30年度は、子ども子育て支援新制度のスタート4年目で、改めて幼保連携型認定こども園として、単一施設としての『盛岡幼稚園』を更に前進させた。

◎ 本年度の3号認定児の入園受け入れ実績は、平成30年3月初日在籍45名（0歳児：9名、1歳児：18名、2歳児：18名）と定員を上回る状況であった。年度替わりしても入所要請が続き、31年3月には、昨年同様に在籍数44名（0歳児：8名、1歳児：18名、2歳児：18名）と定員を上回る在籍数で、特に0歳児6名定員のところ8名在籍となった。これは入園許可認定を行う盛岡市福祉行政当局から待機児童解消のための要請によるものである。

4、事業実施計画の進捗状況等

計画された教育・保育活動は、所期の目的を達し、個々人の発達に応じた生きる力や心の教育の育成並びに保育養護の向上に貢献した。

特に教職員の自己点検意識が高まり、客観的に自らの指導計画や子どもに向き合う姿勢並びに教職員集団の力として発揮できる体制が確立されつつある。

なお、東日本大震災を経験し、改めて危機管理対応の見直しを行い、保護者へも伝え共通理解の共有に努めた。

◎ 盛岡幼稚園 **教育実施日数**：年少クラス、年中クラス、年長クラス 41週

3歳児（193日）、4歳児（194日）5歳児（197日）

◎ **保育実施日数**：・0歳児～2歳児 292日 ・3歳児～5歳児 292日

5、認定こども園保育事業（預かり保育）

（1）預かり保育推進事業

	満3歳児	3歳	4歳	5歳	計
2号認定児	0	22	22	22	66
1号認定児	1	3	3	2	9

満3歳児から5歳児75名が利用。その内1号認定児は9名。2号認定児は66名で全員標準時間利用児であった。

1号・2号認定児の保育状況は、臨時の預かり保育利用児を含め、満3歳と3歳児、4歳・5歳児各年齢児ごとのグループに分けた日課で実施した。

特に5歳年長児は6月以降の午後保育中の午睡を柔軟に取り入れた保育を行うこととし、幼小接続を意識したアプローチカリキュラムを考慮した処遇活動。また、早朝と延長保育は異年齢合同保育として行った。

◎ 年間開設日数：保育日数は年長児クラス197日及び、土曜日（延べ利用数：476名、

平均 11 名)、春・夏・冬休みの実施を入れ 292 日開設した。

◎ 子育て支援事業（トトロハウス）：週 1 回、年間開催回数 30 回、登録者延数 54 組、一回平均参加者数約 10 組。 【親子参加、費用無料、前日までに申込み】

(2) 子育て相談事業：相談件数は 78 件（一般：8 件、園児及び子育て支援事業参加者保護者：70 件）と去年の 75 件に対し微増した。

・相談内容：しつけ・育児が 37 件(47%)、排便排尿が 9 件(11%)、発達・障害 7 件(9%)、登園しぶり 3 件、トラブル・いじめ 4 件、その他 15 件（19%）等の内容であった。 ・相談対応：継続観察 36 件(46%)、助言指導 42 件(54%)。面談相談が多く継続観察ケースが多くなっている。また一般からの相談は少なく（10%）、在園児や子育て支援事業参加者の相談利用が主である。

6、職員研修について

(1)平成30年度 園内研修実践

日 程	内 容	記 録
4月19日(木) 14時～	・盛岡幼稚園全体計画の確認 ・年間指導計画(ポートフォリオ)の確認と検討	向井
5月23日(水)	・各クラスで気になる子どもや合理的配慮が必要な子どもについて、様子を話し合い、職員間で対応を共通理解する。	村松
6月20日(水)	・保健、安全、防災計画の確認と検討、見直し ・事故報告と、事例から見える事故防止	田口
7月26日(木)	・年間指導計画の確認と検討、見直し (特に養護の観点を盛り込んでいく)	瀧山
8月29日(水)	★研修報告 ・盛岡市保育所協議会研修会 『愛着の形成と阻害から乳幼児期の発達と保護者支援を考える』 ・主任保育士会講演会 『園内研修をどうつくるか?』	竹岡
9月19日(水)	・幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿について ↓ 資料を基に学ぶ	舟越
10月17日(水)	↓ 年長児の事例から、10の姿をさぐる ・作品展に向けての話し合い(絵本から広がる制作)	相原
11月16日(金)	・園長先生の講話 『道徳性・規範意識の芽生え』を考える	佐々木
12月19日(水)	・改訂される子ども要録の形式や書き方について学ぶ	齋藤
1月23日(水)	・理事長先生講話 『幼稚園における学級運営について』	高橋
2月22日(水)	・オガールシステム説明会	林崎
3月	・まとめ ・次年度に向けて	田口

※非常勤職員の研修(年3回)実施。 5月21日…理事長先生講義・非常勤職員規定改定について
 ※日程は、行事の関係等で変更あり。 12月6日…給与所得の申告・幼児期の終わりまでに育ってほしい姿
 ※研修報告は随時行うこともあり。 3月5日…自己評価の課題・H31年度運営方針・おがーるシステム

○この他にも職員間で話し合いの機会を設け、研修の機会とする。

- ・月案・週案の作成
- ・特別支援について
- ・研修参加報告
- ・活動や教材の理解と研究
- ・園内外の環境整備について
- ・学期毎の反省・評価 など

(2) H30 年度 園外研修実施状況 ◎特別支援研修会 □保幼小連携研修会 ○その他

日程	研修会（主催者）	研修内容
5.8	□桜城小学校 保育園・幼稚園との交流会	・学習参観、交流会
5.14	○園内中核リーダー養成研修講座Ⅰ	・講義「幼児期の教育における今日的課題と研修意義」 ・公開保育・研究協議「幼児期の遊びと学び」 ・模擬園内研、等
5.12	○岩手県私立幼稚園連合会 盛岡地区教員研修 (岩手県私立幼稚園連合会)	・総会 ・研究分科会
5.31 ～6.1	○幼稚園等初任者研修講座「センター研修Ⅰ」 (岩手県教育委員会)	・講義「幼稚園等初任者に望むこと」 ・演習「保育参観から学んだこと」「発達に応じた運動的な遊び」等
6.5	○岩手県園長等運営管理協議会	・協議「評価を生かす園運営の在り方」等
6.5	○盛岡市保育所協議会 公開保育	・テーマ「廃材で作って遊ぼう」
6.9	○県私立幼稚園認定こども園連合会第一回新任 教諭研修会	・講演「職場組織として求められる人材と心構え」
6.13	□河北小 幼保小交流会	・学習参観、交流会
6.13	○盛岡市保育所協議会 主任保育士会視察研修	・おおぞら村一番地保育園
6.20～ 6.21	○甲種防火管理新規講習会	・講義「防火管理の意義及び制度」
6.22	○全日本幼稚園連合会東北地区私立幼稚園設置 者・園長研修会	・講演「現代の子どもの特性や発達、子どもの関 りについて」 ・分科会「教育・保育の質の向上を求めて」
6.22	□上田小 幼保交流会	・学習参観、交流会
6.26	○5～8年保育者レベルアップ研修講座	・講義と演習「幼児理解に基づく指導計画」等
6.30	○岩手大学教育学部附属幼稚園 公開保育研究会	・公開保育、研究発表 ・講演会「豊かな遊びを育む保育環境を考える」
7.7	○盛岡市保育所協議会教養講座	・講演「愛着形成の阻害から乳幼児期の発達と保 護者支援を考える」
7.11	○岩手県保育技術協議会	・講義と研修「乳幼児の発達と理解」

7.24～ 7.26	○H30 年度幼稚園等中堅教諭等資質向上 研修講座	・講義「幼稚園等中堅教諭等に望むこと」 「特別な支援を必要とする幼児の理解と支援 のあり方」 「幼稚園におけるカリキュラム・マネジメント」
7.28	○県私立幼稚園認定こども園連合会 教員研修大会	・講義「3歳未満児の教育・保育課程の実施につ いて」 「幼稚園教育要領、認定こども園教育・保育 要領における乳児保育」
7.30	○盛岡市児童福祉関係機関職員研修会	・講演「子どもの虐待防止と法的な対応について」
8.7	○平成 30 年度岩手県私立幼稚園・認定こども園 連合会 第 2 回教員研修会	・講演「乳幼児の感染症対応について」等
8.10	○盛岡市私立保育所協会主任保育士会	・講演「園内研修」
8.22	○要配慮者利用施設の避難確保計画策定促進に 係る講習会	・講習会 水害の避難計画作成方法について
8.24	○第 2 回経営セミナー	・講演「キャリアアップ研修の取り組みについて」
9.5～7	○幼稚園等初任者研修講座「センター研修Ⅱ」 (岩手県教育委員会)	・講話と演習「特別な支援を必要とする子ども達」 ・講義と演習「発達に応じた造形表現活動」等
9.12	□保・幼・小 交流研修会	・実践紹介 「小学校入門期における子どもの姿」 ・協議
9.21～ 23	○岩手県保育士等キャリアアップ研修 <乳児保育>	・講義 「乳児保育の意義」等
9.28～ 30	○岩手県保育士等キャリアアップ研修 <保護者支援・子育て支援>	・講義 「保護者に対する相談援助」等
9.27	○盛岡市保育所協議会研修会	・講演「保育所における乳児保育と非認知能力」
9.30	◎いわて特別支援教育講演会(県教育委員会) <盛岡市>	・講演「発達障がいへの理解と支援」
10.13	◎ " <一関市>	・講演「発達障がいへの理解と支援」
10.19～ 20	○東北地区私立幼稚園教員研修大会(岩手大会)	・公開保育 ・講演「宮沢賢治の童話と詩の世界」
11.2～3	○全国幼児教育研究協会経営研修	・講演「しなやかで誠実な学びと行動の対話を育 む」
11.7～9	○幼稚園等初任者研修講座「センター研修Ⅲ」 (岩手県教育委員会)	・講話と演習「指導要録の概要・記載の実際」 ・講義と演習「豊かな感性や表現を育む音楽的な 遊び」
11.9	○盛岡市医師会 学校部会・幼保部会・母子健 康・思春期保健対策部合同研修会	・講演「生活リズムと子どもの発育・発達～睡眠の 重要性～」
11.13	○感染症集団発生予防研修会	・講義「施設内感染症対策」 ・演習「備えよう！冬場の感染症」
11.16	○園内中核リーダー養成研修講座Ⅱ	・演習「これまでの園内研究・研修等の実践交流」

1.8	◎学校教育相談冬期研修会	・講演「愛着障がいのある子どもの理解と対応」
1.10～ 11	○平成 30 年度 総合研修会	・講演「子ども達の今と未来の幸せをねがって」 ・講演「人材確保と働きやすい環境づくり」等
1.19	◎保育士等キャリアアップ研修会	・講演「発達障害について（障害の理解と障害児への対応について）」等
1.25	○平成 30 年度 マネジメント研修	・講演『学校評価に関わる園運営の基本姿勢』等
2.7	○平成 30 年度 岩手県教育研究発表会	・授業提案 中学校国語 ・全体講演「資質・能力を育むカリキュラム・マネジメントの実現」
2.12	◎平成 30 年度盛岡市障がい児教育推進協議会 実践交流会兼研修会	・講演「障がいをもつこの親の思いや願い」
2.24	○食育についての市民講座	・講演「食卓にこんな食事があればいいね」等
毎月	○盛岡地区教員研究会	・分科会研修 6 班『子どもと共に作り出す環境構成』 7 班『3 歳未満児の生活と保育環境』
毎月	○盛岡市保育所協議会	・調査研究班「保育者ハンドブックの作成」等
毎月	○盛岡幼児研究会	・公立・私立幼稚園共同研究会

7、情報の発信の状況（公表・公開）

(1) 園報の発行：年 4 回発行。発行部数 2 4 0 部。法人及び園内情報。

送付先は、保護者（110 部）、同窓生、関係機関他（130 部）

(2) そのほかの情報発信

幼稚園便り(全世帯)：12 回（毎月 1 回発行）、臨時便：40 回 計 52 回

保育部便り(0・1・2 歳児世帯)：12 回（毎月 1 回発行）

学年便り：年長児クラス 16 回、年中児クラス 10 回、年少児クラス 9 回

給食便り(毎月)、ほけん便り：年 3 回

(3) ホームページ：幼稚園の沿革及び業務内容の紹介。新制度に伴い全面変更。

園児活動状況の随時紹介（**にこにこ園日記 45 回発行**）は好評。

また、業務執行・年度状況の報告（財務状況を含む）を公表。

アドレス：<http://www.1907-mkg.com/>

(4) インターネットおたより（岩手県立大学ソフトウェア情報学部共同プロジェクトで実施）

多様化する保護者ニーズに対応するため、従来発行している「園・クラスたより」や「個人連絡帳」の中間的なおたよりとして活用。 **回数：20 回発行。**

Ⅲ 学校評価について

平成 19 年 6 月に学校教育法、同年 10 月に学校教育法施行規則の改正により、自己評価・学校関係者評価の実施・公表に関する規定が新たに設けられました。

当園では、教職員による業務の自己点検・自己評価は、平成 20 年度から公表しております。昨年度は、保護者意向調査による集約内容を報告しましたが、本年度は教職員自己評価結果の概要を公表します。

また、新制度によって単一施設となり、従来の幼稚園のみに設置されていた『学校関係者評価委員会』、及び保育園にのみ設置されていた『苦情解決第三者委員会』を、単一施設として両委員会を設置し、平成 31 年 3 月 12 日に、学校関係者評価委員会及び苦情解決第三者委員会と合同で報告会を開催し、今年度の園の運営並びに経過について報告し評価して頂きました。

1、自己評価結果の内容

- 30 年度の自己評価は、82 の調査項目に対して、職員 32 人それぞれが回答したものを集計した。下表は、10 の大項目にまとめた評価の平均である。
- 調査のねらいは、①自分個人の教育・保育活動のまとめと評価及び課題の把握
②認定こども園としての教育・保育活動の評価及び課題の把握 ③31 年度の計画立案のための資料を得ることとした
- 評価基準は 4 段階とし、4 がよくできている。自分としてとりくみ満足している。3 ができている。2 がどちらかといえばできていない。1 がまったくできていない。

大項目の集計結果

NO	大項目 (小項目の設問数)	職員評価の平均
1	職員意思疎通及び職員資質向上 (13)	13 設問の平均 3.4
2	保育課程・指導計画 (5)	5 設問の平均 3.2
3	園児受容理解 (7)	7 設問の平均 3.4
4	健康状態把握及び健康診断 (9)	9 設問の平均 3.5
5	食事環境及び食育 (8)	8 設問の平均 3.4
6	環境整備 (3)	3 設問の平均 3.5
7	保育活動及び人間関係 (15)	15 設問の平均 3.4
8	学校関係者評価及び保護者との連携 (10)	10 設問の平均 3.6
9	事故対応・危機管理・服務 (9)	9 設問の平均 3.6
10	園の取り組み (3)	3 設問の平均 3.6
	合計 (82)	3.5

分析とまとめ

- 職員 32 人による 82 の評価項目の平均は 3.5 であった。保育部 (12 人) が平均 3.4、幼稚園部 (家庭部、給食部等 20 人) が平均 3.5 で、評価の差はなかった。平均が 3.5 という値は、職員が運営に対して、運営方針を理解し、積極的に取り組み、「自分たちと

しては取り組みに満足している」と評価している。

○課題を明らかにするため、評価点 3.2 以下の項目を検討する。

・大項目 2 の「保育課程や指導計画」では、今後も努力の必要性がある。例えば、話し合いによる立案と毎月の評価、それを次の計画に生かす工夫等である。

・大項目 5 の「食事環境及び食育」関係では、平均が 3.4 ですが、小項目の「幼稚園部の給食試食会実施の検討が必要である。」の項目が低かった。この事は、昨年度の利用者アンケートでも要望があった点である。

○大項目 4 の「健康状態把握及び健康診断」、8 の「学校関係者評価及び保護者との連携」、9 の「事故対応・危機管理・サービス」の評価点は、平均 3.7 以上の項目が多く、全般的に高かった。

○課題としては、保育部・幼稚部・家庭部との一層の連携を図り、低年齢児からの発達理解に努め、保育課程や指導計画の見直し等に努める必要がある。また職員の交流に加えて異年齢児との活動交流も今以上に検討してみる必要がある。これらの事を通して、幼保連携型認定こども園のよさである 0 歳児からの発達を見すえた教育保育活動の充実に一層努めていきたい。

2、学校関係者評価委員会並びに苦情解決第三者委員会

(学校関係者評価委員並びに苦情解決第三者委員合同協議会)

(1) 期 日 平成 31 年 3 月 12 日 (金) 午後 5 時半～

(2) 出席者

「学校関係者評価委員」 保護者代表 2 名、 学校評議員代表 2 名
学識経験者代表 2 名、 地域住民代表 2 名

「苦情解決第三者委員」 学識経験者 2 名 (元児童相談所長、元相談所相談員)

「内丸学園盛岡幼稚園」 理事長、園長、主幹保育教諭・指導保育教諭 2 名

(3) 協議会次第

ア、開 会 イ、理事長 挨拶

ウ、報 告 ・平成 30 年度認定こども園の基本方針及び職員体制について

・平成 30 年度事業執行報告 ・一年間の様子パワーポイント

・子育て相談集計結果 ・園内におけるヒヤリハット及び事故
集計について ・自己評価集計結果の考察

(4) 出席者からの評価 (主な意見及び感想等)

A 氏 仕事柄、いろいろな園に行くことがあり観察するが、保育指導としていろいろなやり方があっていい。当園は遊びが学びとして子どもの個性や能力を尊重して、園児に対し一斉に教師指導を中心にやらせるようなことはしていない。それが特徴ではないか・・・

発表会などの劇で王子様やお姫様とかを何人もやっている園もあるが、当園は一人でやる役は一人だけと決めてやっている。子ども達も自分の役をしっかりとやり(わき役も)みんなで一つの劇を完成させている。

B 氏 ヒヤリハット記録について初めて報告を聞いた。学校現場でもこれを利用することによって、事故が防げるのではないかと

(Q&A) 主体的な遊びとはどういうことですか？

- ・砂山、新幹線、ブロックで遊んでいる遊びが学びとして確認している園内研の例を話す。子どもがやりたいと思った遊びが学びになっているのではないか・・・。1歳児の事例で集団遊びに発展し、それぞれの発語が集団で遊ぶことをきっかけに言葉の獲得もある。このことも学びにつながっている。自由に好きなように遊ばせているのではなく保育者が環境構成をしている。このことをどう保護者に伝えていけばいいか・・・課題となっている。
- ・アクティブ・ラーニング、遊びが学びになるように、保育者の援助かかわりが必要となってくる。保護者には園児の活動を写真で掲示し見てもらっている・・・。また現在、ポートフォリオを2年かけて作成中である。こういう遊びの場面でこういうところが育っている・・・ということを保護者に伝えていきたいところである。

C氏 パワーポイントで幼稚園の日頃の活動や行事を見て感動している。地域住人としては、朝の通勤時、車が多いので事故が起こらなきゃいいなと思って見ている。町内会の老人クラブの旅行に、地域の子どもが入ってきて喜んでいる。近くの町内会の行事に参加させてもらっている。

D氏 聖誕劇を見た時にセリフがでてこない子がいたが、一緒の役の子が慰めていた場面を見て感動した。そういうふうに子ども達が育っていることが嬉しい。

歯をぶつけて治療のため病院に来る子とも達は、いっぱい遊んでいる子なんだろうと思っている。マウスガードは大変なのに頑張れる強い子なんだと思う。

E氏 遊びの事例を聞いていて、幼児期に戻ってみたいと思う楽しさがあった。子どもの興味をどう向けていくか、昔からの課題だったなと思って聞いていた。

F氏 29年度より自己評価のポイントがあがっており、先生方の努力を感じる。

G氏 子どもの特徴を良く理解して接してもらっている。我が子にだけでなく、他の子にもそうしていることが送迎時に感じて感謝している。園での様子は、Webやクラス日より等で理解できている。また悩みも相談しやすい。

お泊り会の買い物を地域のお店で買っており、地域で育っていることを感じる。子どもは今はわからなくても地域の良さをだんだんわかってくるのかなと思う。保護者も努力していかなければならないと思う。

H氏 息子は健診で言葉の遅れがあり、保健師から検査を勧められた。その時、園に相談し対応してもらった。こういう息子だからこそ、一人一人の発達に即した指導が何よりもうれしかった。これができないとダメと先生に言われたことが一度もない、そういう先生の姿を子ども達も見ているのか、できない息子を見て回りの子ども達も言わないところがすごいなと思っている。感謝しています。

I氏 苦情解決委員として評価するとヒヤリハットの記録もきちんとして

いる。事故がないとはいいいきれないが、記録し共有することで事故防止になる。

(Q&A) 事故で保護者から何か言われてないか？

- ・保護者には事故（ケガ）の状況をくわしく説明し謝罪をしている。今のところ保護者から苦情はでていない。
- ・先生はずいぶん謝罪している。ケガをした子のお母さんが「先生が悪くないのに先生が謝るんですよね～」と聞くことがあった。

J氏 苦情という言葉が良くないかもしれない。要望という言葉に形を変えてやってみてはどうか？

行事の時に感想を聞くなどしてみると、案外、苦情のようなものもあるのではないか？園内研での成果を保護者にオープンにしていくのもいいのでは？

◎総評（理事長）

幼児教育は環境を通して主体的な遊びを通して学びがあることを報告した。ヒヤリハットは事故につながらないように結び付けていく必要がある。また職員で共有を図っていかなければならない。

遊びが学びの話がでたので、指導計画、日案など具体的なものの資料提示があれば良かったのかもしれない。ポートフォリオでのまとめもあるので資料として配布できたら良かったと反省しております。

本日は、皆様方からの貴重なご意見を頂きました感謝申し上げます。

IV 財務の内容（平成30年度）

1、資金収支計算書

収入の部		
科 目	平成29年度	平成30年度
学生生徒等納付金収入	38,802,597 円	40,816,492 円
手数料・寄付金収入	296,552 〃	274,030 〃
補助金収入	107,753,920 〃	115,199,850 〃
付随事業・収益事業収入	2,982,307 〃	3,643,220 〃
受取利息・配当金収入	12,457 〃	1,488,767 〃
雑収入	15,147,250 〃	1,865,480 〃
その他収入(前受、未収金・預り金)	25,627,031 〃	36,755,284 〃
資金収入調整勘定	△21,527,370 〃	△4,663,750 〃
前年度繰越支払資金	59,719,277 〃	68,103,307 〃
収入の部合計	228,814,021 円	263,482,680 円
支出の部		
人件費支出	113,383,514 円	107,095,505 円
教育管理経費支出	27,954,456 〃	27,359,897 〃
借入金等返済・利息支出	0 〃	0 〃
施設・設備関係支出	1,257,998 〃	2,803,174 〃
その他支出(資産運用・預り金・前払)	30,285,176 〃	53,993,574 〃
資金支出調整勘定	△12,170,430 〃	△637,890 〃
翌年度繰越支払資金	68,103,307 〃	72,868,420 〃
支出の部合計	228,814,021 円	263,482,680 円

2、貸借対照表

資産の部		
固定資産	364,480,227 円	382,932,155 円
流動資産	89,891,627 〃	77,731,410 〃
資産の部合計	454,371,854 円	460,663,565 円
負債の部		
固定負債	3,250,000 円	3,550,000 円
流動負債	12,301,130 〃	747,557 〃
負債の部合計	15,551,130 円	4,297,557 円
基本金の部		
基本金の部合計	285,642,910 円	287,940,247 円
消費収支差額の部		
翌年度繰越消費収入超過額	153,177,814 円	168,425,761 円
負債, 基本金, 消費収支差額の 部合計	454,371,854 円	460,663,565 円

【注】 ・重要な会計方針の変更、該当事項なし。 ・減価償却額の累計額の合計：129,056,810 円